

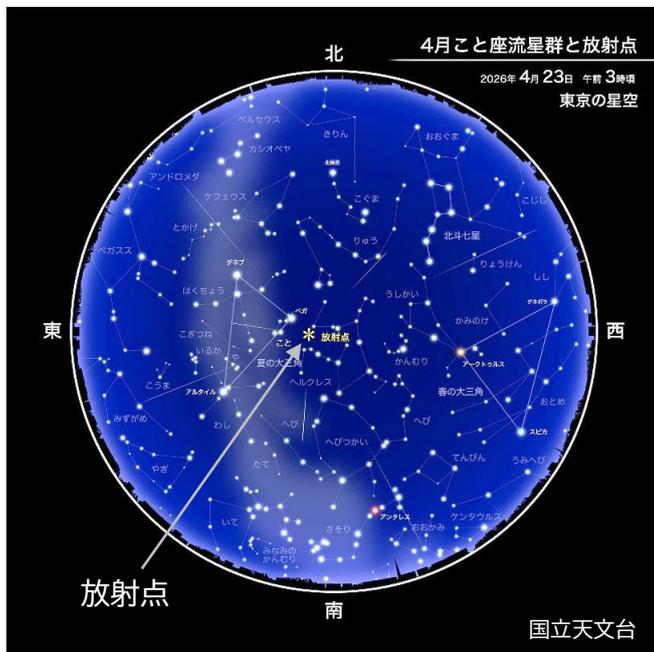
### ★今月の星もよう★

4月の夜空には、春の星座が勢いよく昇ってきています。北東の高いところには、ひしゃくの形に並んだ「北斗七星」を見ることができます。おおぐま座の腰から尻尾にあり、明るい7つの星で構成される星列(アステリズム)で、6個の2等星と1個の3等星からなっています。このひしゃくの柄のカーブをそのまま伸ばしていくと、うしかい座の1等星アークトゥルス、さらに伸ばしていくと、おとめ座の1等星スピカに至ります。この曲線を「春の大曲線」といい、春の星座を探す目印となります。アークトゥルスとスピカ、しし座の2等星デネボラの3つの星が「春の大三角」を作っています。また、西空には木星が-2等級で輝き、日没後には低いところに金星も輝いています。



### ★4月こと座流星群★

22日の深夜から23日の明け方にかけて、「4月こと座流星群」が見られます。この流星群は、紀元前687年に中国で初めて観測されたと言われる、非常に長い歴史をもつ流星群です。それほど多くの流星が流れるわけではありませんが、突発的に多くの流星が出現することもあるようです。流星の元となる母天体はサッチャー彗星で、この彗星の残した塵の中を地球が通過することで流星が出現します。最も多く流れる極大時間は23日午前5時頃と予想されていますが、観察には月が沈む23日午前0時から薄明となる3時半頃までがよいでしょう。4月こと座流星群は暗い場所なら1時間に10~15個程度の流星が期待できます。周りに十分注意しながら観察してみましょう。



### ★黄道十二星座と黄道十二宮★

黄道とは、地球から見た太陽の見かけ上の通り道で、そこには現在、おひつじ座・おうし座・ふたご座など13個の星座があります。その中のへびつかい座を抜いた12の星座が、「黄道十二星座」です。星座はそれぞれの大きさが異なるため、太陽がその星座に位置している期間の長さも異なります。例えば、太陽はさそり座の位置を約7日間で通過しますが、おとめ座の場合約45日間かけて通過します。一方、黄道を30度ずつ12等分したそれぞれの領域を、「黄道十二宮」と呼びます。12の領域にそれぞれ牡羊座・牡牛座...と十二星座を当てはめ、その人が生まれた時に太陽がどの星座の領域に位置しているかで、その人の性格や運勢を占うというのが星占いです。太陽が牡羊座の領域に位置する期間に生まれた人は牡羊座ということになります。ところが、この黄道十二宮の日付は、2,000年以上前に設定されたもので、「歳差」という長年の地球の首振り運動によって、現在の日付とは約1か月のずれがあります。例えば、3月21日から4月19日に生まれた人は牡羊座ですが、実際に太陽がおひつじ座の領域に入っているのは、4月19日頃から5月13日頃です。

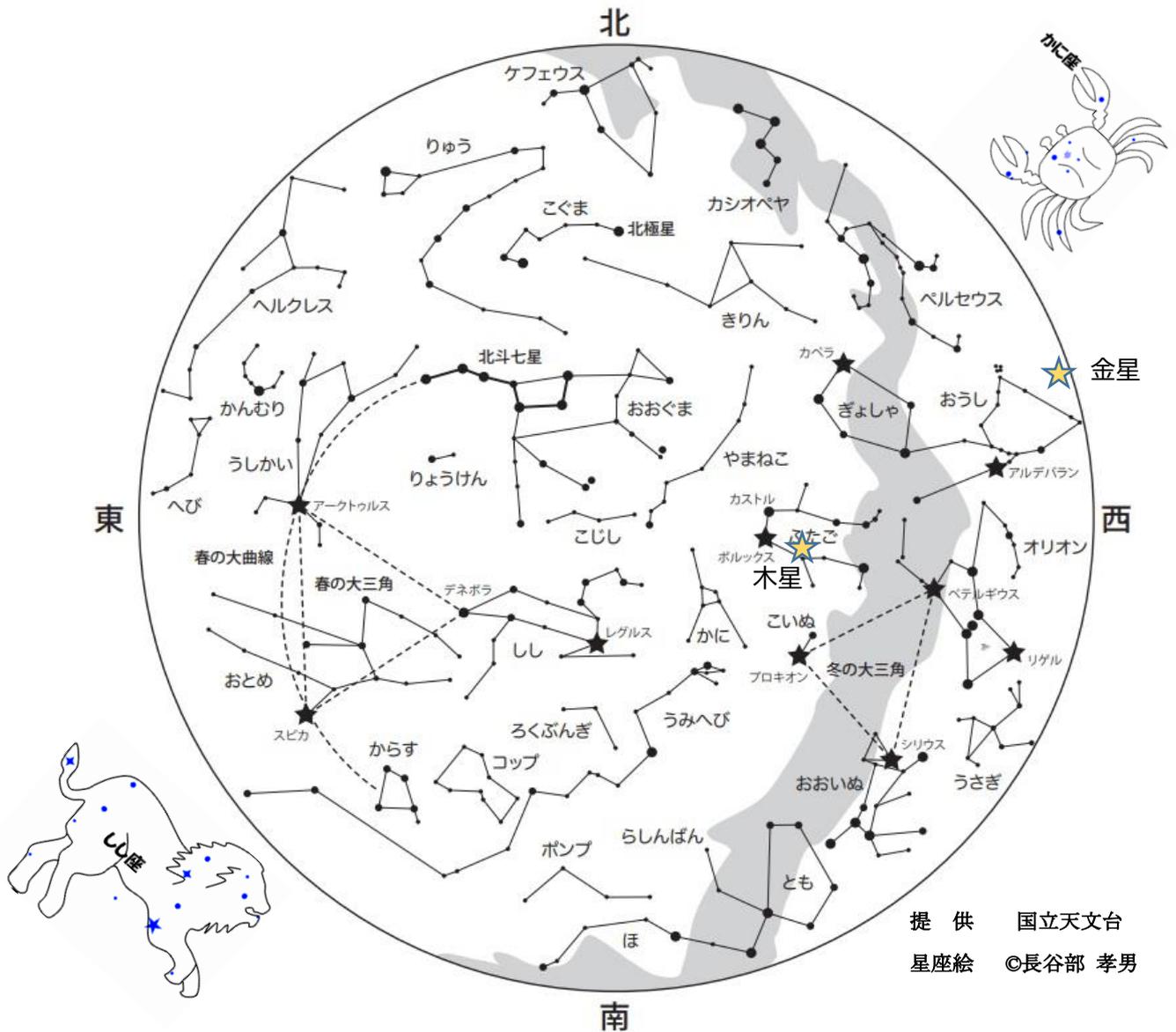
☆4月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み

4/6(月)、13(月)、15(水)、20(月)、27(月)、30(木)



# 4月中旬 午後8時頃の星空



## ★ 4月の主な天文現象 ★

2日(木)	● 満月
10日(金)	● 下弦
17日(金)	● 新月
19日(日)	● 細い月と金星が接近
23日(木)	● 4月こと座流星群が極大
24日(金)	● 上弦
	● 金星と天王星、プレアデス星団が接近

## すばるの近くで金星と天王星が接近

4月中旬から下旬にかけて宵の西の空で金星と天王星が大接近します。プレアデス星団(すばる)とも接近し、最接近は4月24日です。金星とプレアデス星団は肉眼でも見られます

ので、金星をたよりに探してみましよう。また、双眼鏡や望遠鏡で金星をたよりに天王星を探すこともできます。

